

## 参 考 資 料

### コンクールの特色

#### (1) 協奏曲を課題曲の中心としたコンクール

協奏曲を課題曲の中心とし、セミファイナル及びファイナルではオーケストラとの共演による演奏で審査が行われます。

#### (2) 公正で信頼性の高い運営

世界的に活躍する音楽家による厳正な審査と水準の高い運営が評価されており、2005年5月には、国際音楽コンクール世界連盟(WFIMC)に加盟しております。

#### (3) 市民の参加

市民のホスピタリティと聴衆に支えられたコンクールとして、多くの市民ボランティアが運営に参加しています。また、ホームステイ・プログラムの実施、観客が投票を行う聴衆賞の設定など、幅広い市民参加や交流を生み出す事業としております。

#### (4) 第1位入賞者に対する継続的なフォローアップ

第1位入賞者に対しては、副賞として、3か年にわたってオーケストラとの共演機会の提供やリサイタルの開催、CD制作など、積極的、継続的なフォローアップを行っております。

#### (5) DVDによる予備審査の採用

これまで行ってきた各地でのオーディションからDVDによる予備審査とすることで、より広い国々からの出場者の参加を促しています。

### コンクール創設の背景

仙台国際音楽コンクールは、仙台市が仙台開府400年を記念して平成13年(2001年)に創設し、3年毎に実施しています。才能ある若い音楽家を輩出することにより、世界の音楽文化の振興及び国際的文化交流の推進に寄与することを目的としています。

### 第4回仙台国際音楽コンクールについて

平成22年度に行われた第4回コンクールには、ヴァイオリン部門、ピアノ部門合わせて37の国と地域から、430名の申し込みがあり、予備審査を経て、ニューヨーク、モスクワ、ベルリン、ウィーン、パリ、仙台の世界6都市でオーディションを実施し、74名が本選に出場しました。

レベルの高い演奏に加え、世界的に活躍する音楽家による厳正な審査、約300名の市民ボランティアの心のこもったもてなしが高い評価を受けました。期間中は延べ約9,000人の観客が来場し、また、「審査委員によるマスタークラス」や、コンクール出場者による「チャレンジャーズ・ライブ」「学校訪問ミニ・コンサート」などの関連事業もたいへん好評で、これらを合わせたコンクール期間中の総入場者数は延べ13,000人を超える盛況でした。

また、市民ボランティアが自ら企画したコンサートが数多く実施されるなど、出場者と市民の交流も一層深まり、非常に温かい雰囲気の中でコンクールを実施することができました。

コンクール終了後は、リサイタルやオーケストラとの共演など入賞者副賞コンサートを開催し、入賞者の演奏活動を積極的に支援しています。